EDGE
Extraordinary Dyslexic Gifted Eclectic

Report from the EDGE

Vol.24
2010.10.10

ディスレクシア（Dyslexia）とは……………
知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、
読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。
EDGE は……………
ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人（NPO）として、
2001 年 10 月に認証・設立され、活動しています。

ワールド ディスレクシア フォーラム〈後編〉

在英エッジ会員　**舘野 智恵子**

２日目は、英語、仏語、独語、スペイン語、ロシア語、アラブ語、中国語におけるディスレクシアの発表と、カナダ、フィンランドでの教育についての報告がありました。Good Practice（良い教育方法、対策）は何なのか、を考えようという１日でした。

アルファベットを使う言語では、子音が繋がる言葉の音を聞き取り、正しいスペルで書くことが、ディスレクシアには難しく、音韻を教えることが大切だということです。表記法の違う国々では、独自の方法を見つけようとしています。

ディスレクシア支援の先進国の発表者は、早期発見・早期トレーニングが、長い目で見れば、国にとって経済的にも良い、というメッセージを自国の教育省庁に伝えるように、と繰り返していました。１学級の人数を少なくし、普通学級で教えること、教員養成の初期段階にディスレクシアの支援教育を組み込むこと、も大切なポイントとして挙げられました。

世界には多民族の国が多く、学校では英語、仏語、北京語などを使うが、家では違う言語を使う子ども達がいて、ディスレクシアの場合はより難しい問題を抱えることになります。移民の多い国にも同様の問題があります。カナダでは母国語をしっかり習得することが、共通語の習得のために大切だ、と国が資金を出して母国語を勉強できるようにしているそうです。

会場には、成功したディスレクシアの有名人の写真や、芸術家や建築家の作品の写真が展示され、休憩時間に見られるようになっていました。日本から、舞台美術家で建築家の針生（はりう）しずかさんが来場し、参加者や報道人の関心を集めていました。仙台市出身の針生さんですが、現在はヨーロッパで活躍中です。

赤い表紙が目印！

通常学級でできる支援のノウハウが満載！

たちまち増刷！

クラスで気になる子の支援
ズバッと解決ファイル
達人と学ぶ！ 特別支援教育・教育相談のコツ
阿部利彦 編著　四六判・208頁・定価1,785円

クラスの中にいる様々な「気になる子」。その理解の仕方や支援の方略を、それぞれの分野の「達人」たちがわかりやすく紹介。特別支援教育だけでなく、教育相談・生徒指導などにも活用できる１冊。

〒112-0012東京都文京区大塚3-3-7　金子書房　☎ 03-3941-0111㈹　FAX 03-3941-0163　URL http://www.kanekoshobo.co.jp

目　次

P1　ワールド ディスレクシア フォーラム〈後編〉
P2　大学入試とディスレクシア
P3　エッジの10年　その3
P4　LD学会での取り組み
P5　素敵な自分だけの小屋作り／おばけな特殊メーク
P6　第1～3回 成人ディスレクシア就労事業ワークショップ／第31回 DX会報告
P7　EDGEホームページの更なる進化を／寄付御礼／速報「討論会・デジタル教科書の在り方を考える」
P8　LSAの活躍が一冊の本に／最近の活動紹介

2日目の発表の後で、スポンサー企業のひとつであるオリンパスが、IC レコーダーの紹介をし、「世の中の役に立ちたい」という会社の方針でディスレクシアの支援をしている、と説明し参加者の拍手をあびました。

3日目はディスレクシア教育に役立つ先進技術の発表でしたが、残念ながら私は参加しませんでした。飛行機や車を使わないので環境にも優しく、お金もかからないインターネット使用の教育を広めようと、ディスレクシア インスティチュートでは e-campus を始めるようです。

日本はアルファベットを使わない国であり、ディスレクシア支援も欧米に比べると始まったばかりなのに、日本企業がスポンサーになり、針生さんのような成功例もある、ということで日本に興味を持つ参加者が多く、責任を感じながらも有意義な2日間でした。

大学入試とディスレクシア

東京学芸大学 名誉教授／大学入試センター 特任教授　上野 一彦

この度、大学入試センターでは、本年度（平成23年1月実施）のセンター試験から、受験案内及び受験案内（別冊）にある障害区分に新たに「発達障害」を設けるという大きな改定を行った。これは「発達障害」のうち、読みなどに大きなハンディキャップを有するディスレクシア（読字障害）などに対する特別措置で、時間延長、拡大冊子の使用、チェック解答（センター試験ではマークシート方式）、別室受験などを主な内容としている。

平成22年度大学入試センター試験の全志願者数は約55万人、内、障害による受験特別措置を認められた者は1,288人で、その構成比率はわずか0.23%である。しかも、これまで障害種別は、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱のみで、「発達障害」の規定はなく、ディスレクシア等の発達障害系の志願者が特別な措置を求めるには「その他」で志願する以外に道はなかった。わが国では伝統的に身体障害系への理解を中心に障害学生の受け入れ体制が整えられてきたが、発達障害系の学生の受け入れは諸外国に比べ大きく遅れていた。

しかし、平成17年度に「発達障害者支援法」が施行されたことによって、初めて「発達障害」が法的に規定され、初等中等教育から急速に教育支援体制は広がってきた。センター試験においても、先の「その他」によって受験を認められた何らかの「発達障害」系の者は、平成18年度入学志願者から5年間で80名程おり、今後、「発達障害」を事由とする申請者の増加が確実に予想されるところからの変更である。

こうしたわが国のセンター試験におけるディスレクシア等に対する特別措置の導入は、今後、高等学校における彼らへの一層の理解だけでなく、大学入学後の支援体制の充実にも大きな影響を与えることが期待される。

エッジの10年　その3

藤堂 栄子

フル稼働へ

港区 LSA 制度発進

港区との協働で練り上げた LSA（学習支援員）制度は、2005 年から同時に機能が始まった港区の先駆的子ども家庭支援センターの一角に、教育委員会が 50㎡を借り上げて始まりました。その年の夏にすでに支援員養成講座の第一回を開催しました。20名の定員のところ 60名の応募があり、急きょ書類選考のうえ定員を 30 名に増やして始めました。14 日間という長期にわたる講座でしたが参加者はみなとても熱心でした。

翌 2006 年からは区立の通常学級内への LSA 配置を開始しました。一校から始めて徐々に実践を広げていく予定でしたが、ふたを開けたら一年目で約半数の学校へ LSA を配置していました。以来、講座は港区のローカルライセンスとなり、8 期 231 名の修了者がいます。この制度のユニークなのはただ LSA を養成して配置するだけではなく、LSA から支援の内容や目標について月次の報告書を受け取り、それに個別支援室でコメントをすることやフォローアップ講座なども用意していることです。

このたび取り組みについての本を上梓します。また講座も各地で展開する予定です。

より直接的なサポート　K&T クラブ

キッズ＆ティーンズクラブははじめ英語塾として始まりました。英語でディスレクシアが見つかりやすいことと、英語圏のほうがディスレクシアへの対応が進んでいて方法が確立しているからでした。その後、変遷を経て塾という名前からクラブに変え、まずは居場所、その上で自分の強みに合ったラーニングスキルをつける場所に変わってきています。

DX 会

また、ディスレクシアの子どもだけではなく、大人のことも忘れてはなりません。ディスレクシアは大人になっても大変です。履歴書を書くことから、銀行の振込みまで、読み書きがスムーズにできないということは本当に大変です。2005 年 8 月から 2 か月に一回、DX 会というオフ会を続けてきました。現在では福祉医療機構の助成金をいただいて就労についてのガイドブックを本人たちの声を中心に作っています。また彼らが啓発部隊となって、いろいろなところでカミングアウトしたり、キッズ＆ティーンズのワークショップで講師を務めたりしてくれています。

今後の取り組み

文部科学省からの委託を受け、デジタル教科書のディスレクシア児に対する使い方、作り方に関する調査研究を進めています。

これからもディスレクシアの啓発、支援とネットワークを三本柱にして活動を続けていくつもりです。

LD 学会での取り組み

個別支援室相談員　上田 恭子

2010 年 10 月、愛知県立大学において、日本 LD 学会第 19 回大会が開催されました。今年の大会テーマは「通常学級における特別なニーズを持つ子ども達の支援」ということで、まさにエッジが港区と協働で取り組んできた「学習支援員制度」とも深い関連のあるテーマです。

そんなわけで、今回この LD 学会に、自主シンポジュウムの主催と、個別支援室によるポスター発表という形で参加しました。

自主シンポジュウムでは、「通常学級内における発達障害を持つ児童生徒に対する支援」と題して、この学習支援員制度の概要や特徴、また今、東京都港区ではどのように定着しつつあるのか、それを継続させ、更に各地域に普及させていくためには、どのような取り組みが必要なのか、等を話題に取り上げました。現役の港区の学習支援員や個別支援室の相談員、また、この制度を全国に広めるために活動しているディスレクシア協会名古屋の会員による話題提供をもとに、議論を深めていきました。また、港区の学習支援員制度に発足以前から関わってくださっている明治学院大学の緒方明子先生にも、指定討論者として参加していただき、様々な示唆をいただきました。

またポスター発表は、エッジと港区とが協働で立ち上げた個別支援室による「効果的な活用につながる学習支援員の養成とフォロー」というタイトルでの発表でした。個別支援室では、学習支援員の養成を 14 日間にわたって開催しており、それを全て受けることが、港区で学習支援員として働くための要件になっています。この養成講座の内容の見直しを、アンケートを実施することにより捉えたのが、本研究です。また、技量の向上のためにフォローアップの講座も実施してきていますが、現場で活動する学習支援員が、実際の支援にあたって、どういった知識や技能を必要としているかを、やはりアンケートから捉えました。現場ですぐに役立つ知識や実践につなげやすい内容、また学習支援員相互による事例の検討などが高い支持を得ました。

更に、今後必要とされるフォロー体制の改善に関しても、学校現場における人間関係の作り方などで悩む学習支援員の姿も浮かびあがり、今後の講座の内容の精査や、より学習支援員の立場によりそったフォローへとつなげていきたいということを再確認しました。

この LD 学会での発表を一つの節目として捉え、今回の発表で得られた新たな知見を、今後の学習支援員制度の継続や普及への取り組みに、ぜひ生かしていきたいと考えています。

デイキャンプ

2010年8月3日開催

素敵な自分だけの小屋作り

藤堂 栄子

●講師：藤堂 高直　●アシスタント：小野 志門

今回のワークショップの目的は

1）言語以外の表現方法に楽しみながら触れる

2）自分が表現したいものを形にしていく達成感

3）大人になった自分を想像する

これらのことはなかなか普段の学校生活では実現できないものです。

建築家の藤堂高直さんが「マイ・キャバノン」を作るという題で行ないました。

ル・コルビュジエが最後に南仏の一角に作った約８畳の小さな小屋を見習って自分にとって居心地の良い場所をA3の板の上に実現します。小４から中３の９名が思い思いの作品を３時間の間で立派に作り上げました。一つとして同じようなものがなかったのが一番の喜びでした。始めはもじもじしてなかなか自分の好きな場所を言わなかった子もいましたが、講師や助っ人の志門さん、LSAたちの助けを得て、見る見るうちに工夫がいっぱいの自分の場所ができました。

●沖縄の海辺の読書ができる部屋

●バラがからまる魚が見える部屋

●モンゴルのピンクのベッドに天蓋からいろいろな光が入る部屋

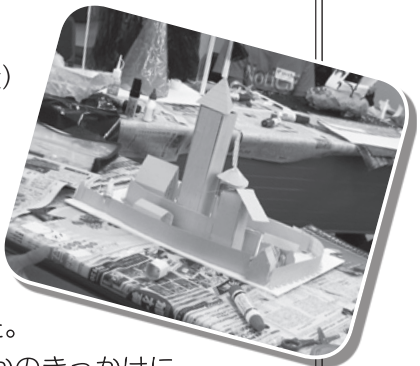
●モンサンミシェルの街

●地下のモグラの部屋
（寝室やテレビを見る部屋）

●大魔王の住処　城

●大魔王の住処　火山

●海の浮島の小屋



最後に一人一人自分の作品の発表をしました。このワークショップが何かのきっかけになってくれればうれしいと思います。

（協賛：東京南ロータリークラブ）

デイキャンプ

2010年8月5日開催

おばけな特殊メーク

柴田 章弘

●講師：砂長 美ん

今回は「自分の手の模型を作る」と「身近な材料で傷を作る」の二つの課題を行いました。アルジネイド（歯医者で使う液状の粉を粘土状にする）で手の型をとって、石膏を流して手型を作りました。手を開いたままだと完成したときに指が折れやすくなります。手を握りしめ、再度挑戦した子どもたちもいました。完成した手型はとてもリアルで、暗いところで緑色に光ります。夜、暗い場所で見たら、気持ちが悪くなるでしょう。

次に食べられる材料で傷を作りました。ケチャップやコーンフレークが材料で、他には絵の具を使って、本物の傷口のように仕上げていきました。よほど近づいて見ないと本物のように思え、本当に重傷を負った怪我人に見間違えそうでした。制作後、自慢の傷口をカメラに向け、記念撮影を行いました。帰りの電車で、包帯を巻いて帰らないと、周囲の人々は驚いたかもしれません。残った時間、美ん先生のマジックショーがありました。大人だと感心する「お札の手品」が子ども相手だと意外に難しい。タネを知っている子どもが騒ぎ出し、戸惑う一幕もありました。慌てず、美んちゃんスマイルで参加者を沸かせていました。

（協賛：東京南ロータリークラブ）

第1～3回 成人ディスレクシア就労事業ワークショップ

柴田 章弘

2010年7月4日、前回の成人ディスレクシア就労事業の結果を踏まえて、就労後の困難さの検討に取り組むことになった。まず当事者6人が現在の仕事をそれぞれ語り、次に困っていることを紹介していった。「記憶力が悪く、申し送り事項がうまく伝わらない」「議事録がとれない」「メニューや料理の段取りが覚えられない」「何が分からないのか、分からない」「電話で、番号と人の名前が聞き取れず、メモに残せない」「字の間違いや抜けが多く、文章の校正ができない」など、ディスレクシアに共通する特徴があがってきた。それに加え、発達性協調性運動障害、食物アレルギー、皮膚感覚過敏、音声の過剰反応なども出てきて、何となく、困難の傾向が見えてきた。それを周囲にうまく伝えることができなかった。また、外観は普通に見えるため、誤解で人間関係の摩擦を生んでしまった例が話された。

第2回（8月21日）、第3回（22日）は星槎湘南大磯キャンパスで行われた。今回は、当事者個々人の困り感をあげ、参加者全員で対処の仕方と工夫を話し合った。初日は3人のケースで意見を交換して、ホワイトボードに要点を記載した。ディスレクシアの当事者の困り感は「読み」「書き」よりも「記憶」、とりわけ短期記憶で苦労していることが浮き彫りになってきた。二日目は現在失職中の当事者（Sさん）の就職を参加者全員で考えた。建設的な意見は飛び交ったが、時間内に結論は出なかった。全体を通じ、成人ディスレクシアの就労には「周囲の理解」と「適材適所」が重要であることが認識できた。

第31回 DX会報告

柴田 章弘

2010年8月8日（日）、第31回DX会は9人（男性6名、女性3名）の出席で、地域活動室で行われました。DX会もめでたく5周年を迎えました。「継続は力」と宣言したかったのですが、思惑通りに運びませんでした。参加者の大半は、開会前に、大学入試センターの実験モニターに協力していました。ワークショップを実行するエネルギーは残っていませんでした。記念すべき5周年企画は水の泡になりそうでした。迷う気力さえないところに、理想的な方が参加されていました。ブレインジムをエッジに紹介して下さった中村真人さんでした。急きょ、頭の疲れをとる方法を教えていただき、それで皆、だんだん元気を取り戻していったようでした。企画が予定通りにいかなくても、別に誰も気にもとめず、会は進行していきました。

後半は自己紹介を兼ね、お題「怖いもの」をA3の紙にクレヨンで描いていきました。文字、絵、イラストなど、各自思い思いに描いていき、15分くらいで、できあがりました。描かれたものは「ジェットコースター」「おばけ」「議事録」など人それぞれ……。それをホワイトボードにマグネットで提示して、皆で眺めて楽しみました。このころになると、疲れも吹き飛び、いつもの笑顔が戻ってきました。

最後に記念写真を撮影して、5周年記念は無事終了、解散となりました。今回も皆さん元気になれたでしょうか？　ハラハラ・ドキドキの6年目のスタートでした。

EDGE ホームページの更なる進化を

従来のEDGEは「EDGEホームページ」と「EDGEブログ」と「愛をはこぶ人キャンペーンホームページ」の三本立てで運用してきました。アクセスは一日に約100～150件ほどあり、一定の読者が確保できました。EDGEは設立以来、ブログとホームページを情報発信できる重要なツールとして、注力してきました。更なるEDGE進化の為に、一層の読者（支援者）の確保が必要になりました。そこで、2010年7月より日本財団の公益事業のコミュニケーションサイト「CANPAN」団体ブログを開設しました。続いて個人ブログを開設しました。個人ブログは会長藤堂栄子ブログで、直筆で現場の臨場感が伝わる一読必見のブログです。そして「愛をはこぶ人キャンペーンホームページ」は廃止して、「EDGEホームページ」に集約しました。

ブログとホームページのそれぞれの特徴を生かし、相互に補完してEDGE活動の情報発信を続けていきます。今後は画像、動画、音声などを活用した、より読者にわかりやすいデジタル掲示板を目指します。ご支援よろしくお願いします。　（IT担当　大澤 兆雄）

寄付御礼

ご寄付、ありがとうございました。

古屋　文男 さん

冊子「キミはキミのままでいい」の改訂、印刷に使わせていただきます。

ご寄進本　**発達のつまずきから読み解く支援アプローチ**
川上 康則　著　　株式会社 学苑社

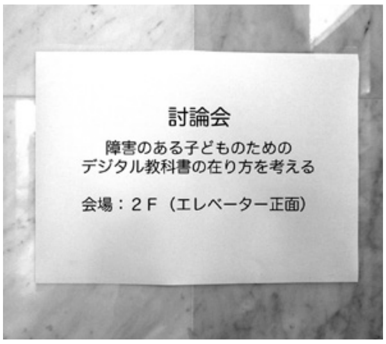
ご寄進 DVD　**イートン校聖歌隊コンサート**
4月2日の模様を収録

速報

討論会　障害のある子どものための デジタル教科書の在り方を考える

９月５日、討論会は東京大学先端科学技術研究センターで行われた。前半は技術的な説明を受け、デジタル教科書が、障害の子どもにいかに役立つかが説明された。字が拡大できたり、音声で聴くことができたりしたら、楽になるLD・ディスレクシアの子どもは多い。期待が膨らんだ。後半は有識者の対談があり「紙ベースの教科書だけではなく、各困難のある子どものニーズとして、デジタル化することが大切だ。それをできるだけ多くの人々とともに推進していく。」との力強いメッセージが感じられた。

（柴田 章弘）



LSA（学習支援員）の活躍が一冊の本に
LSA 制度　港区から全国へ

藤堂 栄子

LSA の活躍が一冊の本に

待望の LSA 制度の本がぶどう社から 10 月 10 日発刊されます。

どうやって NPO と行政の協働が可能になったか、LSA を思い立ったいきさつ、港区での仕組み、そして 200 件以上の実践から、いろいろな学年や環境の中での支援の実践を一冊の本にまとめました。すでに支援員として働いている方はもちろんのこと、興味のある方、学校の先生方、保護者にぜひ読んでいただきたいと思います。

●問合せ先：個別支援室　minatolsa@yahoo.co.jp

LSA 制度　港区から全国へ

港区で話題の LSA 制度と同じ内容の養成講座が受けられるようになります。NPO 法人エッジと NPO 法人星槎教育研究所は共催で『学習支援員（LSA）養成講座』を 2011 年 1 月から開始します。これまで港区で働くのでなくては受けられなかった講座が受けられるようになります。これから支援員になろうと思う方だけでなく、すでに支援に入っている方、学校に対してお子さんの支援を考えてもらいたい方、これから教員になる方などの心構えにもお役に立てると思います。

すでに名古屋、明石、宮崎と川越では取り組みが始まっていますが、全国にある 3 万以上の通常学校内に、理解のある支援員が配置されるようになるにはまだまだ程遠い状況です。

●問合せ先：NPO 法人エッジ事務所　edgewebinfo@npo-edge.jp

2011 年版
マッケンジー・ソープ氏の
カレンダーが手に入る！

早く手に入れて長く使いましょう。
今年も可愛い絵柄がそろいました。

- 一部 1,200 円、送料 300 円
- 10 部以上お申込から割引があります。
- 50 部から特別料金にてお名入れをいたします。

お問合せ・お申込：
dxheart@npo-edge.jp
fax 03-6240-0671
柴田まで

マッケンジー・ソープ
～愛をはこぶカレンダー～

608×425mm 7 枚　　商品品番：TD-30751

〒116-0012 東京都荒川区東尾久 8-32-1
株式会社トーダン 販売本部
TEL 03（6859）1906　FAX 03（6859）1916

Dyslexiaの啓発とサポートを目的にした
NPO法人EDGEを応援しています。

東京蒲田ロータリークラブ　www.tokyo-kamata-rotary.gr.jp

最近の活動紹介

7月 4 日	**WAM第1回WS**
7月 7 日	港区幼稚園SEN
7月18日	小児科医会　研修講師
7月21日	港特別支援学校
7月24日	**WAM第3回準備委員会**
7月30日	**FU研修「事例研究会1」**
8月 3 日	**WS「マイ・キャバノン」藤堂高直**
8月 5 日	**WS「お化けな特殊メークに挑戦」砂長美ん**
8月 8 日	**第31回DX会**
8月10日	**FU研修「事例研究会2」**
8月21～22日	**WAM第2回WS、WAM第3回WS**
8月23～27日	**特別支援教育支援員講座**
9月 5 日	デジタル教科書討論会（東大先端研）
9月 7 日	LSA民間資格化打合せ（星槎）
9月10～11日	日本財団：名古屋・四日市LSA講座
9月12～13日	日本財団：明石LSA講座
9月19日	**WAM第5回準備委員会**
9月24日	ISFネット（障害者雇用）見学／東京都教職員研修
10月 3 日	**WAM第4回WS ／第32回DX会**
10月 8 日	調布市教育委員会
10月9～11日	日本LD学会（愛知県立大学）

今後の予定

10月21日	大田区（講演）
10月24日	臨床心理士会（講演）
10月25日	品川区（講演）
10月29～30日	日本財団：川越LSA講座
11月 5 日	宮崎（講演）
11月 6 日	**理事会**
11月13日	**FU研修「事例研究会3」**
11月13日	日本財団：四日市LSA講座
11月20～21日	日本財団：宮崎LSA講座
11月27日	葛飾区WS（講演）
11月28日	**WAM第6回準備委員会**
11月30日	横浜市PTA（講演）
12月 5 日	JDD年次大会（神戸）
12月12日	**第5回WS ／第33回DX会／理事会**
12月23日	FU研修「トータルな視機能の調整」川端秀仁

Report from the EDGE　－第24号－

2010年10月10日発行

発　行　者　NPO法人EDGE
発行責任者　藤堂栄子
　　　　　　東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F
　　　　　　Tel. 03-6240-0670・0672
　　　　　　Fax.03-6240-0671
編　　　集　NPO法人EDGE 事務局　柴田章弘
印　　　刷　株式会社 信英堂

http：//www.npo-edge.jp
http：//blog.livedoor.jp/npo_edge/
E-mail：edgewebinfo@npo-edge.jp

本紙はディスレクシアの方々がわかりやすく読みやすい丸ゴシック・12級以上の書体を使用しております